

市民活動センターだより

12月

平成28年

vol.9



問い合わせ

○ながはま市民活動センター
長浜市役所〈本庁3階〉
平日 8時30分～17時15分
〒526-8501 八幡東町632

○北部サテライトセンター
きのもと交遊館
水・日曜日 9時～21時
〒529-0425 木之本町木之本1118

☎ 65-6525

✉ katsudou@city.nagahama.lg.jp

市民活動に関する作業や打ち合わせなどにご利用ください！

TOPIC | 今月の情報コーナー

杉野地区地協のこだわり米、 東京で販売開始

岐阜との県境を間近にし、横山岳をはじめとする山々が迫る木之本町杉野地域。

農地の傾斜や獣害対策など平地より農業条件が不利なうえ、高齢化などに伴って耕作放棄地が増え、中山間地域特有の課題を抱えています。そんななか、杉野地区地域づくり協議会では新しい形の米づくりに2年前から取り組んでいます。

農薬も肥料も使わない農法「自然栽培」を行い、安心と安全な米という付加価値で販売しようというもの。新潟県の個人農家からアドバイスをもらいながら約46aでコシヒカリの栽培を始めました。うち10aでは田んぼに常に水をはった状態で生態環境を維持し、田植え機やコンバインなど機械を一切使わない方法に徹しました。



▲昔ながらの天日干し「ハサ掛け」で乾燥させた米もある

今秋から東京の百貨店で、杉野産コシヒカリとして販売を開始。このうち「あかのきせき」と命名したブランドは市場価格の約15倍という高値ながら、関心をもつ人も多く、栽培に関わるメンバーは「今後は組合を組織するなどして軌道にのせていきたい」と意気込んでいます。



◀杉野産コシヒカリとして今後も展開。米本来の甘みが強く感じられる。

各種助成金の募集が行われています！

市民活動の運営や拡大に不可欠ともいえるのが、資金。有意義・効果的な活動につなげるため助成金の活用はひとつの手段です。

現在、県下各地で平成29年度分の各種助成金の募集が行われています。助成を行う主催者は企業、行政などがあり、金額や対象事業などが異なります。自分たちの活動と助成条件を照らし合わせ、最も適したものを選びましょう。

ただし収入源を助成金だけに頼ることなく、会費や事業収入などでバランスよく構成することが必要です。「資

金は自ら調達する」意識が活動の継続にあたっての大原則です。

センターでも募集要項等資料を用意しています。また相談も受け付けていますのでお気軽にお問い合わせください。

■未来ファンドおうみ

(主催：淡海ネットワークセンター)

県下のNPOや市民活動団体を支援している同センターでは、多様な助成金事業を紹介。未来ファンドおうみは、企業や財団などによる寄付を基金にし、複数の助成事業として展開。教育や地域活性化、文化活動などを対象に全8種あり助成は10～30万円。応募受付は平成29年1月15日まで。詳細は同センター(☎077-524-8440)へ。

■夏原グラント

(主催：平和堂財団)

琵琶湖およびその流域において、市民が主体となって取り組む環境保全活動が対象で上限50万円。応募受付は平成29年1月31日まで。詳細は運営事務局のしがNPOセンター(☎0748-34-3033)へ。

※長浜市市民活動団体支援事業については広報ながはま本号(9ページ)に詳細を掲載しています。

こんな活動してます！

近畿地方の暮らしを支える大水脈、淀川水系。その流れの始まりは市北部を流れる高時川です。高時川の源流地域である余呉町北部の山々には、トチノキの巨木やブナの群生があり、付近の住民はこれらの広葉樹を暮らしに活用し、自然と共生する文化が育まれてきました。

ライフスタイルの変化や高齢化で急速に山との関わりが薄れゆくなか、源流地域独特の自然と文化を守り継承しようと、源流周辺出身者らで平成25年に結成。

活動では、胸高での幹周り約3m以上のトチノキの保護と保全のため、生息位置を確認し保存木表示看板の設置を行っています。これまでに約220本を確認し、なかには滋賀県下最大、幹周り9.8mのものも発見されました。

また雪深い土地ならではの保存食の文化を継承しようと、地元イベントなどでトチ餅づくりの実演を行うことも。

現在、会員は約20人。活動に共感し湖南市から通う20代女性もいます。代表の横山屯さん(74)は「急峻な山へ入っての取り組みということもあり、若い世代の協力があると心強いです」と話しています。

高時川の森と文化を継承する会(余呉町)



▲廃村になった余呉町小原に建てた活動拠点の小屋。源流地域で伝わってきた工法で手作りした

☎ 横山 屯 さん
(☎86-3455)